

# 令和7年度 認知症地域支援推進員の活動

1 認知症地域支援推進員：6名

2 認知症地域支援推進員の役割

認知症の人への効果的な支援を行うために、医療機関や介護サービス及び地域の支援機関をつなぐコーディネーターとしての役割を担い、当該推進員を中心として、医療と介護の連携強化や地域における支援体制の構築を図ること。

目 標		具体的活動
1	認知症への理解を深めるための正しい知識の普及・啓発	<ul style="list-style-type: none"><li>・あしやトライあぐるでの広報活動</li><li>・地域見守りネットワーク登録企業等への周知啓発</li><li>・福祉センターでのパネル展示</li><li>・図書館での普及啓発イベント</li><li>・市民向け講座の開催</li></ul>
2	相談・支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"><li>・医療機関との連携</li><li>・認知症事例検討会</li><li>・四季の会への参画</li></ul>
3	地域で支える体制づくり	<ul style="list-style-type: none"><li>・チームオレンジの検討</li><li>・あしやの会の開催</li></ul>
4	若年性認知症の人への支援	<ul style="list-style-type: none"><li>・リーフレット改訂</li><li>・若年性認知症ネットワーク会議</li></ul>

# 【認知症施策全体図】



芦屋市で認知症とともに生きる方、認知症と診断された方、認知症かもしれないと不安な方、ともに生きる家族など、さまざまな方が利用できるサービスや制度を一覧表にまとめたものです。

私の思い、気持ちや希望	認知症になる前 (自分で暮らせる)	認知症になった (少し手助けがあれば暮らせる)	認知症が進んだ (日常的に手助けを受けながら暮らす)
私の思いや悩みを聴いてほしい		高齢者生活支援センター（認知症相談センター）	
からだの調子を診てほしい		認知症対応医療機関 認知症疾患医療センター 脳神経センター 認知症初期集中支援チーム	
元気なからだを維持したい	さわやか教室 介護予防センター 高齢者水浴開放事業		
仲間と語りたい	つどい場、	認知症カフェ、地域支え合い推進員	
自分のことは自分で決めたい	任意後見制度	福祉サービス利用援助事業（日常生活自立支援事業）	成年後見制度
もし、だまされたと思ったら	芦屋市消費生活センター	兵庫県消費生活総合センター	国民生活センター
見守ってほしい		ヘルプマーク・ヘルプカード 認知症高齢者見守りシステム利用援助事業 認知症等高齢者GPS機器貸与事業 認知症高齢者見守り支援事業 認知症高齢者の見守り・SOSネットワーク事業 認知症高齢者個人賠償責任保険事業	

介護保険サービスについては、芦屋市高齢介護課発刊の「あしやの高齢者福祉と介護保険」をご覧ください。

## 取り組み結果

### 取組項目

### 具体的な内容

図書館での普及啓発イベント

令和7年9月2日～10月4日まで市立芦屋図書館で開催。  
認知症図書の新着が増える。パネル展示等を通じて啓発が行えた。

あしやトライあぐる

令和7年10月に「特集つながる、支えあう～あしやの会・認知症カフェ～」と題してあしやトライアングルにて広く市民に啓発を実施。

地域見守りネットワーク  
登録企業等への周知啓発

各包括が連携している店舗や企業等へ聞き取りを行う。  
次年度も継続して周知啓発を行う。

福祉センターでのパネル展  
示

令和8年2月24日～3月19日パネル展示。  
福祉センター来館者に対して広く普及啓発が行えた。

市民向け講座の開催

芦屋市が行う令和8年2月13日の神戸大学との協定締結記念講演のテーマを協議、開催協力を行った。テーマ「認知症の真の共生と予防を目指して」150名を超える市民が参加。



【認知症カフェ】あしやトライあぐる10月前半号

## 取組から気づいたこと

あしやトライあぐるを含め、さまざまな媒体を利用しながら普及啓発に取り組めた。  
新しい認知症観の理解を深め、当事者がいつまでもいきいきと、安心して暮らせる地域づくりを目指して当事者の意見を反映、活動にも参画してもらいながら啓発をしていく必要がある。

## 取り組み結果

### (1) 兵庫医科大学病院と加藤心療内科クリニックとの事例検討を継続実施

合計5回実施。事例を通じて、認知症のある本人や家族への関わり方について考える機会となった。また、顔の見える関係づくりにつながった。

### (2) 芦屋市在宅医療・介護連携支援センターを通じて医療機関への情報発信の場を検討

次年度は医師が集まる場に出向き、地域資源等の紹介を行う予定としており、地域の開業医に直接的に情報提供を行っていく。

### (3) 認知症疾患医療センターと連携し四季の会に参加し、地域の社会資源の紹介

合計4回参加。市内の住民が参加された際には、地域の社会資源について紹介を行い、芦屋市内でも居場所を探してもらう機会となった。

## ④取組から気づいたこと

相談窓口や地域資源の周知については、取組の中で一定の成果が認められた。

一方で、情報発信が個別・点的なものにとどまり、地域全体に向けた継続的な普及には至っていないという課題が見えた。また、認知症の初期段階から認知症相談センターの相談につながるケースは少なく、結果として支援につながるまでに時間を要する可能性があることが考えられる。

今後は、関係機関との連携を一層強化し、情報発信の機会を継続的に確保するとともに、地域資源や相談窓口について、より分かりやすく示し、早期の相談につながるような工夫を行っていく。

## 取り組み結果

### (1) チームオレンジ

「あしやの会」「あしやの会@ふらっと」に本人、家族、ボランティア、専門職が参加しており、チームオレンジとして今後も活動を続けていく。



### (2) あしやの会

全6回実施予定。参加者数合計38名(3月含まず)

当事者の方々と相談しながら、開催内容や場所を検討。地域やケアマネジャーへ周知啓発を行い、昨年度より当事者の参加が増えた。



### (3) 認カフェ連絡会

市内の認知症カフェ計8か所が集まり、情報共有や今後の活動について話合う機会を持った。次年度は協働で認知症カフェの周知を行う予定。



## 取組から気づいたこと

今年度のあしやの会は、当事者や家族が地域と繋がるきっかけになったと考えられる。

一方で、生活のことや困りごと等を共有し、意見交換を行うための時間をとることができなかったことが課題であった。次年度はイベントだけでなく、参加者が自身の思いを伝えられるような工夫を行っていきたい。

当事者の意見を聞くことで、地域で必要な取り組み等を検討していく。

## 取り組み結果

### (1) 若年性認知症啓発リーフレット改訂

若年性認知症ネットワーク会議システム検討会議を開催(参加者22名、1回実施)した。

会議では、当事者・家族・関係機関等が手に取りやすく、理解しやすい内容および構成となるよう協議を行い、リーフレットの見直しの方向性を整理した。

### (2) 若年性認知症ネットワーク会議を開催

個別支援会議を3回開催し、多機関・多職種で支援方針を検討を行った。関係機関間の情報共有および役割分担を整理し、継続的な支援体制の構築を図った。

## 取組から気づいたこと

若年性認知症に関する認知度は十分とは言えず、早期の相談につなげるためには、市民にとって身近でわかりやすい啓発リーフレットの整備が重要である。

関係機関が顔の見える関係のもと連携し、多職種による支援調整を行うことで、支援がスムーズにつながることも改めて認識できた。

今後も、事例を通して支援の質の向上に取り組んでいく。

